

竜の子奨学生

第27号
July.2021

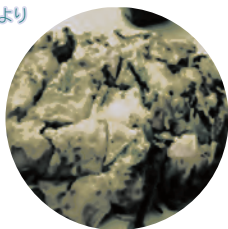
その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



第39回交流会 第14回卒業式・第15回贈呈式にて



SPECIAL REPORT Iより



SPECIAL REPORT IIより

CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第39回交流会レポート
- ⑥ 令和三年度 新入生紹介
- ⑨ 竜の子近況報告
- ⑬ 竜の子 (OB・OG) 近況報告
- ⑭ SPECIAL REPORT I
- ⑮ SPECIAL REPORT II
- ⑰ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団

Tatsunoko Foundation

現在の夢



ドアン ドック ティエン
Doan Duc Tien

大学：東京工業大学卒業
奨学生：2007-2009年
在籍：VTM GROUP株式会社
創業者（ベトナム）

2009年 東京工業大学イノベーション研究科卒業

2009年 サイバーエージェント入社

2010年 ベトナムに帰国、VTMグループ会社設立

2013年 VTMグループの子会社：広告代理事業ConeX株式会社社長就任

2020年 VTMグループの子会社：化粧品、サプリメント、薬製造販売事業Sato Pharmacy会社社長就任

日本人は、いくつになっても若々しく、バイタリティに溢れています。

私が日本に住んでいた頃は、日本人のクラスメートや会社の同僚とお付き合いさせてもらっていましたが、とにかく皆よく働き、よく遊ぶ人ばかりでした。よくそんなに体力があるなど、いつも驚いていたことを思い出します。

その後私は大学を卒業して、2010年にベトナムへ戻り起業しました。今年会社は11年間目を迎えました。私には、起業以来ずっと応援していただいている20名の日本人の友人がいます。皆様のお年は、なんと70歳から80歳です。

1年に1度行われる株主総会のタイミングで、皆様日本からベトナムへいらっしゃいます。そして数日間、皆様と一緒に仕事をし、食事をし、旅行をします。毎回思うのは、皆様70歳を超えていますが、とても元気なのです。ご飯をいっぱい食べますし、歩くのも早いです。夜遅くまで会話も尽きません。

私自身も歳を取った時、皆様と同じように若々しく、バイタリティ溢れる人間でありたいと思い、なぜ日本人は元気なのかを分析してみました。その結果、2つの理由を見つけたのです。

まず1つ目は、日本人は子供の頃から、誰でもよく運動していることです。小学校、中学校、高校、大学では、テストや進学に関係のない「部活」を真剣にやっていて、その結果、丈夫な体を無意識のうちに作っていたのです。

2つ目は、日本人は病気になる前から対処するのではなく、健康なうちから毎日の体調管理をしているのです。1年に1度は必ず健康診断を行い、血液を検査して、体に足りない成分や、余分な成分を、食事やサプリメントで補い、バランスを整えているのです。そのため、成人病の発症を遅らせ、長く健康な状態を維持できるのです。

そこで、私も毎日の運動と体調管理、そしてバランスを整えるためのサプリメントと薬の研究を開始しました。そして、その活動が現在の仕事にも繋がっています。

私の会社はこれまで、インターネット広告代理店および通信販売を主な事業として成長してきましたが、2年前に新規事業として、日本のサプリメントと薬をベトナムで販売する子会社を立ち上げました。この子会社は、日本人とベトナム人のメンバーで立ち上げています。

そして現在、複数の日本の製薬会社と直接パートナーシップを組み、日本のノウハウを活かした高品質なサプリメントや薬をベトナムで販売しています。将来は自社商品を開発し、日本やベトナムで製造し、東南アジア全体に広く展開をしていく計画です。

現在の夢：東南アジアの人々の健康をサポートして、日本人のように若々しく、健康で長生きする人を増やしたいです。そのために、日本の最先端の製薬技術を生かして、ベトナムに工場を作ります。そして、この会社を東南アジアNo. 1の製薬会社にし、東京証券取引所に上場させて、日本へ恩返しすることが私の現在の夢です。

ご寄付いただいた皆さまへ

私は2007年から2009年にかけて、竜の子財団の奨学生として、寄付して下さった皆様から毎月奨学金を頂きました。アルバイトの時間を90%以上減らすことができ、金銭の面であまり困ることなく、自分の研究と将来の夢に集中することができました。当時は財団の活動で色々著名な方にお会いし、お話を伺うことができ、その中で一番印象に残りましたのは秋元竜弥会長の経営理念である『三つの豊かさ』でした。その影響で自分も経営者になりたいと思い、日本人経営者の動き方、考え方を勉強しました。その後ベトナムに戻り、現在の仕事に繋がっています。本当にこの奨学金をいただいたことで、私の人生が変わりました。今後はもっと仕事に集中して、会社を大きく作り上げ、そして、自分も寄付者になりたいと思っております。

(竜の子財団卒業生 現：VTMグループ株式会社 Doan Duc Tien)

第39回交流会レポート

● 第14回卒業式・第15回贈呈式 ●

令和3年3月29日（月）、東京・八芳園にて第14回卒業式・第15回贈呈式が開催されました。竜の子奨学生5名が卒業し、新たに6名が竜の子奨学生として迎え入れられました。椎塚理事が（都合による欠席の）秋元理事長からの式辞を代読し、温かいお祝いの言葉をいただきました。新入生代表として張惜来さんが感謝の気持ちとこれからの決意について話し、卒業生代表の挨拶で朴胤植さんが寄付者および関係者の皆さまへ心より御礼を申し上げました。

理事長挨拶

秋元 竜弥 理事長

椎塚 裕一 理事 代読

この度新しく奨学生として採用された学生のみなさん。おめでとうございます。

また、本日竜の子財団を卒業していく卒業生のみなさん。おめでとうございます。

竜の子財団を設立以来、私たちはこれまでに400名を超える留学生を竜の子奨学生として受け入れてきました。そのほとんどの学生たちは優秀な成績を残し卒業していき、母国に帰り、あるいは日本に残り、それぞれが抱いてきた夢に向かって成長していています。皆さんもそのような卒業生の一員として誇りを持ってこれからの生活を充実させていてください。

新しく竜の子奨学生となったみなさん。私たちは設立以来大切にしているものがあります。それは奨学生たちと共に日本文化に触れる機会を設けて、奨学生同士が直接交流するというものです。これまでも多くの日本の伝統文化に触れる機会を設けてきました。それぞれ違う文化の下で育ってきた奨学生たちに日本文化という共通点を設けることにより、学生間の交流も深くなり、友好関係が築かれていくと思うからです。私たちはこの奨学生との交流会を大切にしているのですが、昨年は新型コロナウイルスの影響で行うことができませんでした。今年は新型コロナウイルスも落ち着くと思いますのでぜひ一緒に日本文化を体験しましょう。

本日、竜の子財団を卒業していくみなさん。みなさんは、日本に留学するときにそれぞれが夢をもって来日されたと思います。当財団のキャッチフレーズに「その夢はきっと世界を変えていく」というものがあります。これか



秋元理事長の式辞を代読する椎塚理事

ら長い人生を生きていくうえで、何度も壁に直面することもあると思います。そのときは日本に来た時の気持ちを忘れず、また財団で共に過ごした仲間がいるということに忘れずに生活をしていてください。また、この財団は多くの支援者寄付者の方々からのご支援を受けています。みなさんはそれだけ多くの方々から期待されているということも忘れないでください。そして日本と母国、アジア諸国の友好の懸け橋となれるように努力を惜しまないでください。OB会で皆さんの成長した姿を見られることを楽しみにしております。本日はおめでとうございます。

新入生代表挨拶

一橋大学
チョウ シライ
張 惜来

春の花々が目覚めるように咲き、野山の草木も一斉に芽吹き始める鮮やかなこの頃、私たちは、竜の子奨学財団の贈呈式を迎えました。

私は一橋大学経済学部三年の張惜来と申します。今年の新入生代表として、秋元理事長をはじめ、竜の子財団の方々、財団を通じて私たちを支援してくださるの方々、来賓の皆様へ心より感謝を申し上げます。

私は中国黒竜江省出身で、中学、高校時代は母と吉林省に移住し、高校卒業後、夢を実現させるために日本に来ました。去年、これまで一人で私の生活と学業を支えてきた母が病気で手術を受け、私たちは経済的な余裕を失いつつありました。アルバイト、学業、就職活動を同時進行させなければならなくなったこの時期に、竜の子財団は、夢を追いかける力をくれました。

夢は理想的な自分になることです。夢を実現させる、これこそ、いただいた奨学金の正しい使い道だと思います。



新入生を代表してスピーチする張 惜来さん

社会で自身を磨いていく中、いただいた奨学金はきっと心の支えになってくれます。戦場においても冷静でいられる、嵐に遭遇しても自信と勇気を持てる、苦痛を吹き飛ばすような楽観的な心持ちでいられます。これは、財団の方々、財団を支援して下さる皆様の思いやりがあるからです。

これから、困難と挑戦に立ち向かう中、雑草のように根強くたくましい心を育て、竜の子財団が授けてくださった翼で、私はやっと憧れの世界へ旅に出られます。私たちの可能性を広げていただき、夢を支えていただけることを、もう一度心より感謝を申し上げます。私たちは必ず、異文化交流と理解、国際友好親善に寄与することを誓います。私たち竜の子奨学生は必ず、日本と母国に限らず、世界で活躍できる人材になることを誓います。



椎塚理事より目録の贈呈

(担当：令和元年度竜の子奨学生 九州大学 曾 嘉林)

卒業生代表挨拶

朴 胤植



卒業生を代表してスピーチする朴 胤植さん

竜の子財団の皆様、コロナで大変なこの時期ですが、本日貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。今日この場に立つことが出来て光栄です。本日、竜の子財団の皆様への感謝の言葉と、卒業生と奨学生の皆さんへお伝えしたいことを3つ話したいと思います。

まず、竜の子財団の皆様へ、卒業生を代表して感謝を申し上げます。私は4年前に竜の子財団に入り、奨学生として長い時間お世話になりました。奨学生になってからは、何よりも経済的な困難から離れて、研究活動に集中できました。個人的には博士課程の3年目に研究テーマを変えることになり、色々と大変な日々でした。そんな時、私を信じて支援して下さる竜の子財団の存在が、精神的にとっても力になりました。ありがとうございます。留学においては、単に勉強をするだけではなく、文化を学び、人との交流をすることも大事な部分だと思います。竜の子財団では、交流会の場で様々な国から来た留学生たちと交流をしながら、日本の生活や文化を学ぶことができました。今後も竜の子財団の恩を忘れず、夢に向かって挑戦を続ける人生を生きていきたいと思っています。対外的には国際社会でオープンマインドの意識を持って、日本と韓国そして世界に貢献できる人材になれるように、今後も努力していきたいと思っています。

そして卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。それぞれの夢は違いますが、前向きな皆さんと一緒にいて心強く、夢をあきらめずにここまで来ることができました。ありがとうございます。皆さんは今、最初留学に来た時に描いた卒業する頃の自分の姿と一致していますか。夢に

卒業生の袴姿



着物姿の卒業生たち



毎年日本和装ホールディングス株式会社様から卒業生に黒紋付をご提供いただいております。



椎塚理事より卒業記念品の贈呈

近づいた方も、そうではない方もいると思います。でも、卒業生の皆さん、今からが新しいスタートだと思います。社会に出て、今持っている夢を忘れずに挑み続け頑張りましょう。

竜の子財団の奨学生の皆さん、身寄りのない日本に来て、コロナ禍の状況もあり、いろいろと大変な経験をしていると思います。留学生の悩みは同じ留学生たちこそよく分ると思うので、お互いに話し合うことで、力になれると思います。この財団の奨学生たちは皆、ひとりではありません。大変なことがあったら、財団の皆様と奨学生の仲間たちに、悩みを相談してみてください。繰り返しになりますが、最後に、今まで支援してくださった竜の子財団の秋元理事長と、竜の子財団の関係者の皆様に、心から感謝の言葉を申し上げます。本当にありがとうございました。

閉会の挨拶

株式会社アルデプロ

取締役常務執行役員

営業本部長

秋元 和弥 様

皆さん、今晚は。ただいま椎塚理事よりご紹介いただきました秋元と申します。たぶん今回私とは初めましての方も多と思いますが、本日欠席している理事長の長男です。私がこの竜の子財団の贈呈式に参加させていただいた最初のころは、まだ学生でした。高校生の時から参加させていただいており、今年で32歳になりますが、最初に参加させていただいた時から約15年が経過しています。今は椎塚理事と一緒にアルデプロという会社で取締役をやらせていただいています。遡って学生のころ竜の子財団に



来賓を代表して
閉会の挨拶をする秋元さん

抱いた最初の気持ちは、海外から日本に来られて、最初はまだ多分日本のことを何も分からないでしょうし、右も左も分からないなか、大学で優秀な学生さんが熱心に勉強されるお姿は、当時高校生の私にとってすごく刺激になりましたし、まだまだ自分も頑張れるというより、もっと頑張らないといけないと、竜の子奨学生たちに負けないようにという思いが沸くのを感じたように覚えています。その最初の気持ちというのが社会人になって、今の取締役という重役を担う中でもモチベーションになっているところが大きいです。今回2年ぶりの卒業式・贈呈式となりますが、久しぶりに参加させていただいて、自分自身まだまだ甘いなと思い、まだまだ皆さんの頑張りに負けているところもあるなと感じました。また来年は開催できるか分からないですけれども、私の成長を含めて自分自身の頑張り、竜の子奨学生さんの頑張り、来年交流会で会えることで、お互い切磋琢磨できればと思います。

また卒業された皆さんの更なるご発展、ご多幸を祈願しながら、日々の日常を過ごしていければと思います。今回ご卒業される方、今回採用された方を含めて、皆様の頑張り、今後の将来のご多幸、今後の成長を祈願して最後締め言葉とさせていただきます。皆さんおめでとうございます。

兆泰グループの穆会長より記念品



スーツケース収納バックをいただきました。スーツケースの中スツクリ！



八芳園の夜桜も楽しみました

(担当：平成30年度竜の子奨学生 京都大学 崔 麗華)

令和三年度新入生紹介 「私の尊敬する人」

令和三年度新入生六名をご紹介します。今回も、新入生の「私の尊敬する人」について語っていただきました。誰でも尊敬する人がいます、彼らの導きと助けがあってこそ、私達は夢を続けられ、困難があっても努力を続けます。ここで、皆さんの想いとともにご紹介させていただきます。



イ シノキ
尹 詩軒 (中国出身)
早稲田大学
教育研究科 修士2年

これまで多くの人に助けられてきましたが、最も尊敬する人を一人選ぶとしたら、祖母だと思います。祖母は現在、中国で健康な老後生活を送っていますが、若い頃に多くの苦しみを味わったので、人生の厳しさを理解し、愛の価値を知り、そして、愛し方、愛され方を私に教えてくれました。

教育者、科学者、芸術家たちはとても偉大です。彼らは世界を変え、私たちにより良い生活を与えてくれました。それに対して、私の祖母は、学校に行ったこともなく、国を出たこともない普通のお年寄りかもしれません。しかし、彼女がいなければ、私が教育を受けたり、科学を学んだり、芸術を鑑賞できる心を、他の誰が支えてくれたでしょうか。

この世の中には、学校で勉強する年齢をとっくに過ぎていのに、まだ世の中のことをきちんと学んでいない人がたくさんいます。そんな人達にとって、博物館は意義があると思います。私の祖母は愛をもって私の世界を支えてくれました。ですから、私も博物館の研究を通して、祖母に世界を見てもらいたいと思っています。



ルフィア ショフィ アルビ
(インドネシア出身)

東京工業大学
環境・社会理工学院 土木・環境工学系
修士2年

私の尊敬する人は私の両親です。私の父はインドネシアの教育機関の講師です。彼は勤勉な人で、勉強に飽きることはありません。本を作るなど、常に自分の日々を生産的にしようとしています。私の父は何か問題があったときにアドバイスをしてくれる人です。

私の母はキャリアウーマンです。彼女は仕事が忙しいのに、母親としての義務を忘れていません。彼女が問題を抱えているように見えることはめったにありません。それは彼女が強い人であるからです。彼女は簡単に諦めません。私の母は道徳的なサポートを提供する人です。

私の両親はともに、プロセスが結果よりも重要であると考えています。これはとても良い考えだと思います。なぜなら、私は常に自分の仕事に一生懸命取り組むよう励まされるからです。私は自分がするすべてのことに最善を尽くし、最良の結果を祈っています。

私の夢は、環境コンサルタントとして働き、環境分野で働く人になることです。確かに、コンサルタントになることは、多くのスキルを必要とし、プレッシャーの下で働くことになるので簡単ではありません。ですから、私はいつも父のように学び、生産的になることを愛する人になりたいと思っています。また、キャリアウーマンの母のように、良いバランスを取れるようになりたいです。



キ エンエン
冀 媛媛 (中国出身)
名古屋大学
人文学研究科 博士2年

小さい頃はアインシュタインのような人に憧れていました。アインシュタインは最高の頭脳の持ち主で、特定の分野に重要な貢献をしました。しかし、小さい頃の私にとってアインシュタインは幻のような存在で、自分がどう頑張れば近づけられるのかまったく分かりませんでした。今大人になった私にとって、元指導教官の玉岡賀津雄教授のおかげで、アインシュタインがどのような人なのか次第に分かってきた気がします。

元指導教官の玉岡賀津雄教授が、今私の尊敬する人です。先生の前で2年間しか勉強できませんでしたが、先生は私の人生に大きな影響を与えてくれました。先生は立派な研究者というだけではなく、一人の人間としても尊敬すべき魅力的な方です。先生は研究者として、絶えず新しい知識を吸収し、言語事実を明らかにするだけではなく、言語処理や神経言語学まで幅広い分野で活躍されています。しかし、先生が物事に取り組む姿勢は先生の功績や業績よりももっと魅力的です。先生はいつも学会発表の直前までプレゼンを準備し続け、投稿の締め切りまでに論文を修正し、とにかく何事にも最後まで粘り続け、ベストを尽くして臨んでいます。私は先生を見習いながら、地道に努力していきたいと思っています。いつか先生のような研究者になります！



シュレスタ シモナ
(ネパール出身)
立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部 学部3年

尊敬する人というと、真っ先に思い浮かぶのがプシュパ・バースネット氏です。2012年には「CNN Hero of the Year」、2016年には「CNN Super Hero」などの数々の賞を受賞しています。私は、この様々な賞はもちろん、プシュパ氏の、自分の目的へのパッションと成功への決意を尊敬しています。

プシュパ・バースネット氏はネパールのソーシャルワーカーで、「Early Childhood Development Center」と「Butterfly Home」という非営利団体の創立者です。このNGOは、保護者が刑務所にいるという理由だけで、刑務所での生活を余儀なくされている子どもたちに家を提供することを目的としています。彼女の道のりは厳しいものでしたが、決して諦めませんでした。困難に直面するたびに、彼女は常に現実的な解決策を考えます。その結果、彼女は今では100人以上の子供たちを助けてきました。

私の夢は教授になり、ネパール教育の改善に貢献することです。また、ネパールの学生に良質な教育を受けさせるためにNGOを設立することも目標にしています。彼女とは目的は違いますが、私はプシュパ氏のような人になりたいです。プシュパ氏のように、問題に直面した時には、本質的にそれを解決し、学生がより良い未来を手に入れられる手助けをしたいと思っています。プシュパ氏のこれまでのあゆみから、私は、どんな夢でも追い求めることは簡単でないが、最も重要なことは、決してあきらめず、常に努力することだと学びました。



チョウ シライ
張 惜来 (中国出身)
一橋大学
経済学部 学部3年

私が尊敬する人は母です。

私の出身は、中国東北地方にある黒龍江省双鴨山市という、経済発展がとても遅れた町です。私の両親は私がとても小さい頃に離婚しました。涙が枯れるまで泣いた母は、人生を変えるため、英語をゼロから独学することを決意しました。そして、英語を教える教師になりました。母は英語教師として一生懸命働き、私を双鴨山市から連れ出しました。母は今48歳になりました。定年が近い母は最近、大学院に行きたいと思うようになりました。私はいくつになっても夢を抱き、周りに何を言われても夢を諦めない母を尊敬しています。

私は将来、トップレベルのビジネスレディになることが夢です。今はこの夢に向かって就職活動に励んでいます。私は中国黒龍江省双鴨山市から、23年かけて、日本の東京にある一橋大学にたどり着きました。母のおかげで、私は飛躍的な登り方をしてきたと思います。私の人生にはまだ23年が何度か巡ってきます。私はこの先、どこまで登れるのかがとても楽しみです。



イ ジェヒ
李 宰熙 (韓国出身)
筑波大学
人間総合科学研究群・体育学専攻
修士2年

私の尊敬する人は、ブルースリー (Bruce Lee) です。彼は、優れた武道家であると知られていますが、私は彼を武道家ではなくて、哲学者として尊敬しています。中学校の頃、偶然に彼の自伝を読んで以来、彼の強い精神力に魅了され、今まで尊敬してきました。ブルースリーは、数多くの名言を残しており、その中でも私は二つの名言を人生のモットーとして常に心掛けています。

まず、一つ目は、“私は一万種類の蹴り技を一回ずつ練習した相手は怖くない、私が怖がることはただ一つの蹴り技だけ一万回繰り返して練習した相手に会うことである”です。自分の分野において専門家になるためには、真面目に努力することが重要だと考えます。私は自らが成し遂げたいと思うことに全力で突き進む行動力・精神力を兼ね備えて、体育科学分野、特に高齢者を対象とした応用健康科学分野における、世界で一番の専門家になりたいと思っています。

また、常に心掛けているブルースリーの名言二つ目は“‘知ること’でとどまってはいけない、必ず応用しなければならない”です。もちろん何かを知ることが重要ですが、それを実践・応用できないと意味がないと思います。

ブルースリーの名言を常に心掛け、応用健康科学領域の研究に携わる者として、世界の人々の健康増進に尽力し、更には日々の成果を広く社会に還元するという社会的責任を全うする研究者を目指しています。

竜の子近況報告



桜下の写真

オウ カネイ

王 佳寧 (中国)

北海道大学大学院 教育研究科
教育行政学専攻 博士3年

「コロナ時代下の花見」

皆さん、お久しぶりです、お元気でしょうか。最近北海道の感染状況が悪化し、緊急事態宣言が出て感染者はあまり減りません。大学側は5月から改めて全ての授業をオンラインに変更し、研究室とスーパー以外は殆ど外出していません。つい先週、友達に誘われて定番の北海道神宮の花見に行ってきました。例年だとビニールシートを敷いてBBQをしたり、ビールで乾杯したりする人が多いのですが、今は皆マスクをつけて静かに散歩しながら花見を楽しんでいます。さすがコロナと共存する時代の新たな生活様式だと実感しています。研究面については、論文投稿は比較的順調に進んで、次のステップへと入ります。



テレコムセンター前の公園で

チョウ シュンキ

趙 春琪 (中国)

東京大学 情報理工学系
創造情報学専攻 博士2年

「富士山でのキャンプにワクワク」

皆さんお元気ですか？3月から5月まで、三連続の論文投稿（学会2本+研究費申請書）で、GWの休みも全て文章を書くことについてやりました。ワクチン接種もようやく6月から始まり、密を避けながらの息抜きとして、初めて友人たちとキャンプへ行こうと思っています。ドラマかつアニメ「ゆるキャン△」の聖地である富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジというキャンプ場に行くつもりで、綺麗な富士山と星景写真を撮れることにすごくワクワクしています。



2021年のイード (本人中央)

ファウズィア カマリナ (マレーシア)

東京電機大学大学院 理工学研究科
電子・機械工学専攻 修士2年

「イードのお祝いのためには、心は家にある」

ラマダンが終わりました！海外に滞在しているマレーシア人は、今年は家に帰って家族と一緒に過ごすことができないため、寂しさを感じながらイードを迎えました。私は日本にいる友人たちとイードを祝いましたが、やはりこの時期は家族と過ごす時間に勝るものはありません。4年間帰っていないので慣れているとはいえ、マレーシアでは両親が自分達だけでイードを祝っていると思うと悲しくなります。早く世の中が良くなって、愛する人に会えることを祈っています。みんなもコロナに負けないように、研究も生活も頑張りましょう！



バーベキューを楽しむ (本人左手前)

アルビルフィア ジョフィ (インドネシア)

東京工業大学 環境・社会理工学院
土木・環境工学系 修士2年

「奥多摩でのデイキャンプ」

今年のゴールデンウィークはかなり楽しみにしていました。私は奥多摩でデイキャンプをしました。そこでたくさんの新しい友達ができました。私たちはそれぞれに異なる食べ物を持ってくるという役割分担をしていました。川辺でバーベキューをしました。その日の天気は曇っていて小雨が降っていましたが、それでも快適でした。私はその後、よりリフレッシュした気分で、就職活動や修士論文の準備をすることができました。



就職活動中

ホセニルテ セイエドシャリヤル (イラン)

東海大学
工学部 3年

「就職活動」

今、私は三年生の後期なので就職活動をしています。しかし、新型コロナウイルスの影響で会社説明会に参加できなかったり、インターンシップに参加できていない状況です。留学生の就職は大変です。また、コロナウイルスの影響でさらに就職が厳しくなっています。そのため、今は不安と心配しかありません。私は、建築業界に就職したいと思っているため、解体の仕事をして経験を積んでいます。そのことをアピールして就職活動に役立てていきたいと思っています。みなさんもコロナウイルスが大変だと思いますが勉強も就職活動も頑張ってください。



学生寮で

チョウ シライ
張 惜来 (中国)

一橋大学 経済学部 3年

「夢を叶えるための日々」

私が就職活動を始めて2ヶ月が経ちました。最近、自分の理想を叶える業界は、外資系投資銀行と外資系コンサルだと理解しました。そして、サマーインターンにたくさん応募し、試行錯誤もたくさんしつつ、学業と就活を両立させようと努力しました。今はようやく、夢の会社であるマッキンゼーの一次面接まで進めました。その結果がどうなっても、私は成長し続け、夢を必ず叶えようと思います。



二見興玉神社の初詣 (本人中央)

キ エンエン
冀 媛媛 (中国)

名古屋大学 人文学研究科
人文学専攻 博士2年

「朝ランニングして体を鍛えています」

研究室に行って一日中パソコンの前で過ごす日々が多かったことと、コロナウイルスの関係で外出を控えていることで体力が低下しています。このままではまずい！研究のためにも体のためにもランニングを始めなきゃと思い、今年の四月から朝ランニングを始めました。最初は慣れなくて、ベッドから起き上がりにくいこともありましたが、今は何とか朝ランニングを習慣化できました。そろそろ新しい論文の執筆に取り組む時期にきていますが、体力の心配は一切ないです！



ティズニーランドで

イ シノキ
尹 詩軒 (中国)

早稲田大学 教育研究科
学校教育専攻 修士2年

「引っ越しました」

最近、神奈川に引っ越してきたのですが、東京よりずっと静かで、研究するのに適していると思います。コロナ禍の生活に少しずつ慣れてくると、一年前のように外出するのが怖くなりました。今は新しい友達が周りにでき、好きな博物館や遊園地にも時々行って、毎日健康で楽しく過ごせるようになりました。ちなみに最近はゲーム作りに少し興味を持っています。博物館の展覧会に合わせてスマホゲームを作れば、観覧者にもっと興味を持ってもらえるのではないかと考え、実践してみたいと思っています。新しい家で、このようにもっと新しい生活に挑戦したいです。



美しい松島の景色をバックに

チ ジンウイ
祁 婧鈺 (中国)

東北大学 歯学研究科
歯科学専攻 博士4年

「美しい松島の景色を眺めて」

今、東北大学大学院歯学部博士課程の4年生で、今年の9月に卒業する予定ですが、寂しさを感じています。4月は、予備審査を行っていました。その時は緊張しましたが、予備審査委員の先生たちは優しく、結果は良かったと思います。今は、本審査の準備をしています。

ゴールデンウィークは、日本三景の松島に行きました。とても綺麗なところですが、美しい松島の景色を眺めて、心地よい風に吹かれて気持ちが良かったです。その美しい景色の中で、難しい仕事や不安などをすべて忘れえました。



銀閣寺の雪見

ソウ カシン
鄒 可昕 (中国)

京都大学 人間環境学研究科
人間環境学専攻 修士2年

「新しいことに挑戦しています」

コロナ禍であまり外に出かけたくなかったこの一年間、自宅で新しいことに挑戦し続け、かなり達成感を感じています。

動画編集の独学をはじめ、ウクレレを弾き、カクテルを作り、その他にも今までやってないことを色々試してきました。その中で一番自慢出来ることは、動画編集の勉強だと思います。最初右も左も分からないところから、複数の編集ソフトを勉強し、動画を作ってネットに投稿するようになりました。つい最近、ある動画の再生回数が20万を突破しました。

現在も、週2本の動画を投稿すること目指して、毎日コツコツとやっています。



海地獄、別府に初詣

シュレスタ シモナ (ネパール)

立命館アジア太平洋大学
アジア太平洋学部 3年

「充実した大学生活を送っています」

大分県では、コロナの状況が悪くなっていますが、様々な活動で忙しいです。4月からは三年の後期になり、勉強と一緒に新入生をサポートする2つのコースのTAを担当しています。新入生の多くは母国に戻っていますが、大学生活の重要な部分で彼らを指導することができ、とても幸せに感じています。他にも、大学で家庭廃棄物管理について美術展を運営しています。特に、オンラインワークショップでは、参加者に家庭ごみのアップサイクル方法を教えています。

皆様、どうかご安全に、そして近いうちにまたお会いできることを願っています。



河内藤園の藤トンネルで楽しんでいます

ヨウ ジョ
楊 茹 (中国)

九州大学大学院 生物資源環境科学研究科
環境農学専攻 博士2年

「歌詞勉強を楽しんでいます」

ゴールデンウィークに友達と北九州にある河内藤園に行きました。今年の開花密度は多少薄いですが、友達とドライブ気分で行ったため、非常に楽しめました。

いまは2本目の論文執筆に集中しており、今年中に2本目の論文が投稿できればと思います。

また最近ではストレス発散のために、歌を聞いています。しかし、日本語と英語の歌詞が全部聞き取れないと気付き、日本語と英語の歌を月に2曲ずつ歌詞を書き出し、勉強しようと決め、楽しんでいます。また、笑えばいいことが起こると信じ、笑いながら日々を過ごそうと決めています。



じゃんけん4連敗した後コーヒーを淹れています

ソウ カリン
曾 嘉林 (中国)

九州大学大学院 総合理工学府
物質理工学専攻 博士1年

「研究もじゃんけんも頑張りたいと思います！」

コロナ禍で外出が難しくなり、学会もほぼ全部オンラインになりました。毎日感染対策をしっかりとって、体調に気をつけながら研究生活を送っています。研究室の同じグループの人はみんなコーヒーが好きなので、毎日午後、コーヒーじゃんけんをして、負けた人が全員分のコーヒーを淹れることになっています。今年4月には新入生も入ってきて、コーヒーじゃんけんの参加者が7人に増えてきましたが、なぜか最近自分だけずっと負け続けている気がします。ワクチンが普及し、コロナが終息するまでまだ時間がかかりそうですが、研究もじゃんけんも頑張りたいと思います。



焚火は眺めるだけで癒されます

サイ レイカ
崔 麗華 (中国)

京都大学 農学研究科
森林科学専攻 博士3年

「暖くなったのでアウトドアスタートしました」

コロナが始まってからもう一年が経ちましたね。いろいろ大変なことも多かったですが何となくコロナの中で自分の生活リズムも変えつつ慣れてきた気がします。外食や買い物すらだぶしにくくなった最近ですが、その代りに楽しめる何かを探したいですね。そこで天候も暖くなった4月からアウトドア活動を始めました。サイクリングやキャンプをするのが最近の一番の楽しみです。京都は町から少し足を延ばすとすぐ山や海があるのでアウトドア活動をしやすい町です。毎日見ているパソコンから離れて、体も動かして気分転換にもなるし、野外でちょっとした料理をして食べるのもなかなかおいしいです。まだ釣りはできないのですが、釣りもできるようになったら自給自足できるかもしれません！



睡眠実験室で

イ ジェヒ
李 宰熙 (韓国)

筑波大学 人間総合科学研究群
体育学専攻 修士2年

「1年間の実験の終わりが見えてきました」

コロナがなかなか落ち着かない状況ですが、私は充実した研究活動を続けています。1年前に始まった修士論文の睡眠実験の終わりがやっと見えてきました。ヒトを対象とする睡眠実験なので被験者を見守るために私も実験室に泊まらないといけないし、色々大変でしたが、最後まで無事に終わらせるように頑張っています！今までの実験の結果が予想通りにいい方向に進められていい雑誌に投稿すること準備もしています。修士論文の中間発表会の日程も決まったので、実験の結果をちゃんとまとめて準備していきたいと思います。また、茨城県地域在住高齢者を対象とする睡眠改善運動教室の運動指導を担当しているんですが、「運動教室に参加してから睡眠の質が良くなりました」とか「毎週の運動教室が楽しくてたまらないです」などの感想をいただいでいて、私も毎週楽しく行っています。コロナの状況であるものの、自分の研究がうまく進んでいるので修士論文のためにもうすくし頑張りたいと思います！



竜の子(OB・OG)近況報告



キャンプ場でBBQ
シュ シン
朱 震 (中国)
京都大学卒業

「今度は自分が手を差し伸べる番です」

一昨年からSDGsになにか貢献できるかを考え、持続可能な消費と生産を促進させる仕事に転職しました。その後、仕事以外でできることを探して、自分と同じ、またはそれ以上の苦境に置かれた人の力になると決めてボランティア活動に従事することにしました。

現在は、子供／貧困／難民移民の社会課題に対して支援を提供するNPOに参加しており、以前竜の子財団から支援を頂いたように、外国ルーツの方々への生活、教育やキャリア形成のサポートをしています。

ほんの少しでも、誰かの人生に良い影響を与えることができたら嬉しいです。



シンガポールに元気でやっている

リム ヤンクアン (マレーシア)
名古屋大学卒業

「シンガポールで元気にやっています！」

皆さん、ご無沙汰しております。日本から離れてそろそろ4年になります。今年4月にシンガポールのガーデンズ・バイ・ザ・ベイで久しぶりの花見をしました。(当時シンガポールの感染者数は0でしたが、今は増えています) また、コロナの状況が安定しましたら、子供を連れて日本に行きたいと思っています。

皆さんもどうぞ体調にお気をつけください。

もし、シンガポールに来られる人がいれば、教えてくださいね。



先日ジムで頑張っている様子～

ギ トウキ
魏 登輝 (中国)
東京外国語大学卒業

「コロナには負けませんよ～」

皆さん、ご無沙汰しております。自分の近況を一言で言うと、「健康管理」になります。コロナ禍で在宅勤務が常態化になり、最初の頃は新鮮でラッキーに思えましたが、長期化するにつれ、寂しさが日に日に増してきました。その寂しさを紛らわすために、そして体力作りのために、「毎日ジム」を日課に定めることにしました。

コロナに人生設計が大きく変更させられた人も多くいるでしょうが、コロナに健康の大事さに気付かされた人も多くいるでしょう。コロナ後の世界に期待を持てるよう、皆さんもぜひ体調に気をつけ、元気にお過ごしください。



仕事が終わってから毎日子供と自転車遊び

アズハニ ピンティ イスマイル (マレーシア)
東京工業大学卒業

「マレーシアからの報告です！」

お久しぶりです！皆さんお元気でいらっしゃいますでしょうか。竜の子OGのアズハニです。2009年に卒業してマレーシアに帰国してから12年間経ちましたが日本のこと、もちろん竜の子奨学財団の皆様のことをいつも恋しく思っています。今マレーシアでグローバルロジスティクス会社のファイナンス部に働いていて日本社へのファイナンスサービスをしています。コロナウイルスで去年から今までずっとお家から仕事をしていて最初は大変でしたが時間に連れてもう慣れてきました。現在マレーシアのコロナウイルス状況が悪化しているためマレーシア全国ロックダウンとなっています。重要な事情がなければ外に出かけられないのでほとんどお家で過ごしています。楽しく家で息子二人と過ごすように子供と一緒に料理をすることなど毎日仕事上がりに息子とバドミントンをしたり自転車で近所周辺を回ったりしています。今世界中大変な時期だと思いますので皆様のご健康とお幸せを祈っております。いつかまた子供を連れて日本に行きたいです。

SPECIAL REPORT I

● 私が尊敬する人 ●

私の名前はホセイニルテ・セイエド・シャリヤルです。イランのテヘランの出身です。私は、4人家族です。家族構成は、父、母、姉、自分です。イランは、人口が78,000,000



イランの国旗



イランの地図

人で、北部と南部は2種類の海と面しています。イランには、森や砂漠もあり、とても自然にあふれています。イランの国土は、日本の約5倍ですが人口は日本よりも少ないです。土地がたくさんあり、石油やサフラン、キャビア、ピスタチオなどといった高級なものがたくさん採れるにもかかわらず、イランの経済状況は日本よりもよくありません。そのため、人口の約80%の人たちは貧しい生活を送っています。どのくらい貧しい生活を送っているかという点、一日に一度しか食事をできない日があったりするほどです。しかし、残りの20%の国のトップの人たちは、裕福な生活を送っています。イラン国内の経済格差はとても大きいです。私は、80%のうちの1家族に生まれました。



働いているときの私

私の家庭は貧しかったため、6歳のころから家族が生活していくお金を稼ぐために働かなければなりません。80%の中でも6歳から働かなければならない子供は2~3%ほどでした。子供のころから朝は学校に行き、夜は仕事に行かなければなりません。そのため、勉強のことより仕事のこと（お金のこと）を心配していました。私は、一日のサイクルが、勉強→仕事→睡眠だけだったので、普通の子供のように遊ぶことができず、つらい思いをしていました。そのため、私は幼いころから家族や自分のためにお金持ちになりたいと思っていました。そのため、大人になるまでたくさんの勉強や経験

をしてお金持ちになるための努力をしていました。私は、高校を卒業したら、すぐに日本に行こうと考えていましたが、その時に、姉が大学に進学しました。しかし父が仕事を失っていたため、姉の学費を払うことができなかったため、私が日本に行くために貯金していたお金を姉の学費のために使いました。また、父が働くことができるようにするために、服を売る店をつくりプレゼントをしました。しかし、私の貯金だけでは足りなかったため、私は姉の学費のためや自分の生活費のためや日本に行くためのお金を稼ぐために、さらに働かなければなりません。そのため、日本に行く時期は、予定よりもとても遅くなってしまいました。

今現在、姉は医者になり、父は立派に仕事をしています。

私は、私の頑張りや家族を幸せにすることができてとてもうれしく思いました。それと同時に家族を助けることができたことを誇りに思っています。なので、私は自分のことを尊敬しています。

また、日本に来るまではお金を稼ぐこ

とが大きな目的となっていました。日本の大学に入り、建築を学んでいくうちに考え方が変わり、発明的な建築物を造って有名な建築家になりたいと思うようになりました。そして、有名な建築家になったら私の人生を本に書き記し、これから生まれてくる子ども達から尊敬される人になり、貧しい子どもたちに自分の努力次第で明るい道が開けるということを伝えるのが私の夢です。私は今、学費や生活費を稼ぎながら勉強をしている最中です。今の世の中は、経済状況があまり良くないので全力で頑張らないといけないと思います。夢への道のりはまだまだ遠いですが、一歩ずつ夢を叶えるために頑張っていきたいと思っています。皆さんも努力をすれば、夢を叶えることができるので、どんなに大変でも努力することを忘れないでください。



大学を卒業した姉



父にプレゼントした店

(担当：令和2年度龍の子奨学生 東海大学 ホセイニルテ セイエドシャリヤル)

SPECIAL REPORT II

● 韓国の料理紹介 ●

<韓国わかめスープ>

各国には、特別な意味のある料理があります。例えば、日本では、重要な受験や試合の前にトンカツを食べる習わしがあります。その理由としてはトンカツの“かつ”は、勝利するという意味の単語である“勝つ”と発音が同じことから、受験や試合で勝利することを祈るためにトンカツを食べるようです。

このように各国には、意味のある料理があると思います。今回は特別な意味のある韓国料理について、竜の子財団の皆様にご紹介させていただきたいと思います。

一年の日々の中で、最も待ち遠しい日は自分の誕生日ではないかと思えます。誕生日に欠かせないものはケーキであり、誕生日にケーキを食べるのは世界共通と言っても過言ではありません。もちろん韓国でも誕生日にはケーキを食べながらお祝いをしますが、もう一つ、韓国人の誕生日に欠かせない料理があります。韓国では、誕生日にわかめスープを飲む習わしがあります。なぜ韓国人は誕生日にわかめスープを飲むのでしょうか？

出産した産婦とお誕生日の人がわかめスープを飲む習わしは昔から伝えられてきました。昔、クジラが子を産んだ後、わかめを食べる姿を見た先祖が、出産後の産婦にわかめスープを食べさせ始めたという話があります。また、わかめはすべすべした触感が特徴です。そこで、子供を産んだ後わかめスープを飲むことは、わかめそのものに産婦に必要な栄養素が多いという側面以外にも、産婦のお腹の中から出てこられなかった胎盤などが、わかめみたいになまめくすべって出てくるという意味もあります。

これらの話が伝えられ、両親は子供が丈夫に育つのを祈り、子供は自分を産んでくれた両親の恩恵を忘れずに記するために、誕生日を迎えてわかめスープを飲むのです。



韓国の牛肉わかめスープ



韓国の貝わかめスープ

韓国のわかめスープは日本とは違い、牛肉を入れるのが特徴であり、場合によっては、貝を入れることもあります。

しかし、韓国でわかめスープは肯定的な意味だけを表す料理ではありません。韓国では、重要な試験に落ちたときに‘わかめスープを飲んだ’という表現を使います。わかめスープのすべすべする特徴に例えて、重要な試験に滑る（落ちる・落第する）のを‘わかめスープを飲んだ’という表現で表すのです。そのため、韓国では、重要な試験や面接、試合などがある前はわかめスープを飲まない習わしがあります。

このように、韓国のわかめスープは場合によって意味することが違ってくる面白い料理であると思います。

<韓国の小豆粥>

竜の子財団の皆様は冬至という時期をご存知でしょうか。冬至とは、1年でもっとも昼間が短くなる日、つまり、夜がもっとも長い日で、二十四節気の一つでもあります（12月21~22日頃）。韓国では、この冬至の日に赤色的小豆粥を食べる風習があります。冬至は日が一番短い日であるため‘陰’の気がもっとも強く鬼が多い日であると言われていています。

小豆は陽の気が強いので、赤い小豆粥が陰の気を退けると思われています。古来、韓国では赤色が呪術的な力を持っていると信じられていたのが太陽、火、血のような赤色が命と力として認識されてきました。それで一年で夜がもっとも長い冬至の日に鬼や悪い気を退けるために、赤い小豆で作った小豆粥を食べてきたのです。

ちなみに韓国では、引っ越ししたら隣近所の方へ赤い小豆で作った餅（シルトック）を配る風習もあります。これも引っ越ししたお家の鬼を退けるための呪術的な意味があるのです。

古来から、各慶事（結婚・出産・開業・引っ越しなどのお祝い）にはお餅を作ってみんなで食べる風習がありました。見慣れぬ隣人であるが、どうかこの村の共同体に早く慣れるように配慮して頂きたいという挨拶と、親戚より近い隣近所の人になる新しい仲間を優しく受け入れる村人感情がシルトックに込められています。



韓国の小豆粥



韓国のシルトック

<雨が降る日はチジミを>

韓国人は、雨が降る時チジミを思い浮かべます。雨が降ることとチジミにはいったいどんな関係があるのでしょうか？その理由は、チジミを油で焼くときに出る音が雨が降るときと似ているため、雨の音を聞くと自然にチジミが思い浮かぶからです。さらに、雨が降る時はチジミのおいも普段より拡散しやすくなり、聴覚はもちろん、嗅覚、味覚まで刺激されると言われています。竜の子財団の皆様も、雨が降る時、ぜひチジミを召し上がってみて下さい！



雨とチジミ

編集後記

委員長 九州大学 ^{ソウ カリン} 曾 嘉林

この度、竜の子奨学生の第27号会報誌の編集委員長を務めさせていただきました。会報誌の編集作業は初めてでしたが、関係者の方々や編集委員の皆さんと話し合いながら作業を進め、非常に貴重な経験を積むことができました。財団の皆様と関係者の皆様、OOGと奨学生全員のご協力のおかげで、編集作業をスムーズに行うことができました。誠にありがとうございました。最後に、このような機会を与えてくださった竜の子財団の関係者の皆様に深く感謝いたします。

委員 京都大学 ^{サイ レイカ} 崔 麗華

今回久しぶりに会報誌の編集に参加させていただきました。去年からコロナ禍で財団の皆さんとの交流がなかなかできなかったのですが、このような機会が財団の関係者様と奨学生たちと一緒になにかをすることができて楽しかったです。実際会うことはできなかったのですが、今度ぜひこのメンバーで集まりたいと思います！

委員 東海大学 ^{ホセイニルテ セイエンドシャリヤル}

この度初めて竜の子奨学生会報誌第27号の編集に参加させて頂きました。私は今回が初めてで、今回の「SPECIAL REPORT」で私が尊敬する人について紹介させて頂きました。私は、どんなに辛い状況でも努力次第でなんとかなると思っており、皆さんが、そういった状況になった場合に少しでも勇気づけることが出来れば嬉しいです。今回はコロナの影響でオンラインでのコミュニケーションだったのですが、コロナが収束したら、直接会って会話出来ることを楽しみにしています。コロナの中、大変だと思いますがみなさんで力を合わせて頑張っていきましょう。

委員 早稲田大学 ^{イ シンキ} 尹 詩軒

この度初めて竜の子奨学生の会報誌の編集に参加させていただきました。財団の関係者様も奨学生たちもとても親切で優しい方です、このような機会と一緒に素敵な会報誌を作ることができて、私はとても嬉しいです。これから実際に会って皆さんとお話したいと思います。

委員 筑波大学 ^{イ ジョヒ} 李 宰熙

この度、会報誌第27号の編集委員にて、SPECIAL REPORT II「韓国の料理紹介」を担当させていただきました。

どんな韓国料理を紹介すれば良いのか色々悩みましたが、竜の子財団の皆様特別な意味を持つ韓国料理を紹介すれば面白いのではないかと、テーマを「特別な意味を持つ韓国料理」にしました。編集をしながら、今まで自分も知らなかったことが分かるようになって楽しく編集に参加できたと思いますし、すごく良い経験になりました。コロナの状況で、すべての編集会議をオンラインで行ったのがすごく残念でしたが、早く落ち着いて竜の子財団の皆様と直接お会いできるのを楽しみにしております。



第3回編集会議後にて



第2回編集会議にて



第1回編集会議後にて

ご寄付いただいた皆さまへ

この度、竜の子奨学生を代表して、寄付者の皆さまに心より御礼申し上げます。

私たちはそれぞれの夢を抱き、その夢を叶えるために日本に留学にきました。しかしながら、勉強や研究に集中しながら生計を立てるのは非常に困難です。特に去年から、コロナの影響で母国の家族からの仕送りが減り、アルバイト先が休業を余儀なくされ、生活費の確保がさらに難しくなりました。そんな厳しい状況に直面する中、皆様からご支援をいただきました。皆様のおかげで、私たちは経済的な困難を心配せず学業や研究に専念でき、自分の夢を追い続けることができるようになりました。私たちはご支援を下された皆様への感謝の気持ちを忘れず、皆様と一緒にコロナ禍を乗り越え、日本とアジアの架け橋となり、社会に貢献できるようにこれからも一生懸命頑張っていきたいと思っております。

(令和元年度竜の子奨学生 九州大学 曾 嘉林)